



# 豊穣の海を取り戻そう! 海は暮らしの バロメーター



渋川マリン水族館  
坂口 誠さん

岡山の二大河川は古代から  
たくさんの土砂を海へ運び、河  
口に堆積させました。長い  
年月をかけて徐々に平野を広げ  
つつ、海には広大な干潟をつくり  
ていったのです。「今は平野になっ  
ていますが、岡山市や倉敷市一  
帯は『瀬戸の穴海』と呼ばれ  
る干潟の多い海だつたんですよ」  
と渋川マリン水族館（市立玉  
野海洋博物館）の館長、坂口  
誠さんは話します。

「さらにも歴史をさかのぼると、  
本州と四国は陸続きで瀬戸内  
海は草原でした。そのため、

天然の浄化システムであつた干渉は近世以降の干拓で消えていきました。埋め立てや護岸工事で海岸線はさらに姿を変え、島しょ部以外の自然海岸は少なくなっています。「人の暮らしを便利にするために開発が進み、便利になったことで人がたくさん集まって海へ流れ込む廃水も増えました。淨化システムをなくしたことと、海に流れ込む汚れが増えたことは、足し算ではなく掛け算のような勢いで海の汚染を招いたのです」と坂口さん。

魚介類の生育を助けるアマモ場も激減したといいます。アマモは海藻ではなく陸上の植物と同じ種子植物。根をはつて土の中から栄養を吸い上げるので、それ自体に底質改善の働きがあります。アマモが群生するアマモ場は「海のゆりかご」と呼ばれ、産卵や稚魚の成育場所にもなります。「水島や笠岡は、かつてはアマモの群生する浅瀬でした。桜鯛の産卵の季節になると、アマモ場をめざす桜鯛の群れで海が赤く見えました」

回収、アマモの再生、人工干瀬づくりなど。坂口さんは語ります。「今残っているものを大切に残して、これ以上悪くさせないよう私たち一人ひとりが努力することも大切。陸上でのどこで捨ててもゴミは海へ流れ込みます。瀬戸内海が汚れているかいないかは、周辺に住む私たちの生活態度のバロメーターだといえるでしょう。ゴミは分別して出す、放置しない、もつと言えばゴミができるだけ出さない。そういう生活を私たちには心がけていかなければなりません。

時代が昭和から平成に入つた頃から、環境に対する人々の意識が高まり始めました。「海水がおかしい」という声が上がり、工場からの廃水だけでなく生活廃水も海を汚しているということを人々は知りました。

豊饒の海を取り戻そうといふ動きは広まっています。藻が生えやすい形の護岸、海ゴミ

# 瀬戸の穴海のいわれ

源平合戦の古戦場、倉敷市藤戸。中世の頃、今は藤戸海峡と呼ばれる遠浅の海でした。沖に浮かぶ島は児島（現在の児島半島）、海峡を挟んで布陣する源氏と平家。この時、地元の漁師から浅瀬の場所を聞き出した源氏の武将が騎馬のまま海峡を渡り、平家軍に奇襲をかけた話は有名です。

海となつた今も海底はほとんど沙です。干鳥や砂、砂兵に

は自浄作用がありますし、人が出す汚れも今ほど多くはないかつた。それで、瀬戸内海は美しく保たれてきたのでしょうか？」

天然の浄化システム

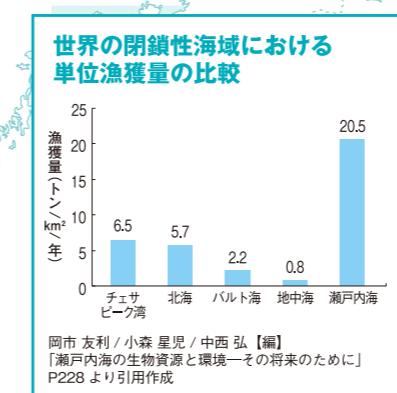
は自浄作用がありますし、人が出す汚れも今ほど多くはないかつた。それで、瀬戸内海は美しく保たれてきたのでしょうか？」

写真／笠岡沖諸島

瀬戸内海の特性

海報標題：《2023年中國經濟形勢分析與展望》

- 約 525 の島
  - 瀬戸と灘により速い潮流
  - 海底地形が複雑
  - 干溝差 2~4m



**岡山の**

- 海域面積 約 800 km<sup>2</sup>
- 約半分
- 夏 : 高温
- 冬 : 低温
- 岡山県
- 牛窓町
- 三大洋

**岡山県**

1952-1960  
1949-1950

岡山の海の特性

- 海域面積が狭い（瀬戸内海総面積の約3.4%）
  - 約80の島
  - 約半分は水深10m以下
  - 季節の水温変動が大きい  
夏：高水温（最高29.7°C）  
冬：低水温（最低5.7°C）  
岡山県森林水産総合センター・水産研究所  
「牛窓沖の平年値」より引用作成
  - 三大河川からの豊富な栄養塩

## 岡山県沿岸域における主な出来事

|           |                        |
|-----------|------------------------|
| 1952-1959 | 児島湾干拓(淡水湖化)            |
| 1949-1987 | 水島臨海工業地帯埋立造成 1,823ha   |
| 1956      | 錦海湾塩田化                 |
| 1963      | 油臭魚の発生                 |
| 1966      | 農薬汚染による奇形魚の発生          |
| 1966-1990 | 笠岡湾干拓 1,810ha          |
| 1968-2002 | 35年間に及ぶ海砂採取            |
| 1973      | 水銀汚染                   |
| 1973      | 海上交通安全法施行に伴う漁業規制       |
| 1974      | 水島コンビナート重油流出事故         |
| 1962-1998 | 寄島干拓 60ha              |
| 1985-現在   | 水島港玉島東航路浚渫             |
| 2006-2008 | 水島沖に公共閑用と最終処分場建設       |
| 2001-現在   | 国家石油ガス備蓄倉敷基地の建設        |
| 1987-現在   | 水島冲人工島(玉島ハーバーアイランド)の建設 |



渋川マリン水族館  
(吉井王野海洋博物館)

〒706-0028 岡山県玉野市渋川12-6-1  
TEL:0863-81-8111  
<http://www.city.tamano.okayama.jp/syousoku/kaihaku/>

## 内海の 海ごみ

# 高校生ならではの視点で 海ごみ問題に取り組む

**山陽女子高等学校**  
地歴部の活動が  
日本ストックホルム青少年  
水大賞を受賞しました。

山陽女子高等学校・地歴部の活動「瀬戸内海の海底ごみ問題の解決に向けての取り組み」回収活動と啓発活動からのアプローチ」が、2013年日本ストックホルム青少年水大賞を受賞しました。本大会

は、水環境に関する調査研究活動や、それに関する実践的活動を表彰するもので、「水のノーベル賞ジュニア版」と言われる、権威ある賞です。10月にはトルコで開催される国際会議青少年の部に日本代表として出席するなど、彼女たちの活動は世界から注目されています。

また、啓発活動として海ごみかるたを制作しています。「くろい」という想い。メディア・学術活動・啓発教材・地域という4つの視点から、環境啓発活動を開催してきました。



7月に東京で開催された表彰式・受賞活動発表会の様子。

## 海での課外活動を通して 問題の大きさを肌で感じる

その活動の根幹にあるのは、まだまだ認知度の低い海ごみ問題を、より多くの人に伝えたという想い。メディア・学術活動・啓発教材・地域という4つの視点から、環境啓発活動を開催してきました。

問題の調査・研究に加え、課外活動にも力を入れています。寄島漁協の協力のもと、生徒たち自ら漁船に乗り込み、回収活動に取り組んでいました。この井上貴司先生は語ります。

す。大変な調査ですが、説得力のある問題提起を行うために、自分で体感し、向き合うことを大切にしています。

みかるたを制作しています。「くろい」。これはその中の一部。どうぞ嬉しい。次の世代に伝えたいことが、生徒たちの今後の人材において、少しでも糧となれば嬉しい。次世代に伝えたいこと、地道に継続していくことが大切だと思っています。限られた時間の中で、たくさんのことを感じてほしい」と、顧問の井上貴司先生は語ります。

# 瀬戸内の海ごみを13年間研究し続けてきた みずしま財団の思い

## 13年間の調査の実績が語る 瀬戸内海の海ごみの実態

水島地区に事務所を構える公益財団法人水島地域環境再生財団(以下みずしま財団)。地域住民への聞き取り調査をはじめ、採泥調査や底びき網を使った海底ごみの回収、水中ロボットカメラやダイバーによる撮影など、様々な手法を取り入れ、瀬戸内海の環境の変化を観察してきました。

「陸にあるものは海にある」と言われるほど、海ごみの種類は多彩。電子レンジや冷蔵庫、

軽トラック…。海の中にはあらゆるゴミがあります。

素材別の内訳(左図参照)では、ポリ袋やプラスチック製品などが7割を占めます。これらは自然に還らない人工物で、人間の手で回収しない限り、なくなることはありません。また、時間が経つて素材が劣化し、細かく飛散してしまうと、回収はさらに難しくなります。

まずは知つてもらおう」とから海ごみは、そのほとんどが、沿岸部ではなく内陸部から運ばれてきたもの。私たちが用水路や河川に捨てた生活ごみが、海ごみの正体なのです。

「川と海は密接につながっています。海ごみは、私たちみんなの問題なのです。まずは、そのことをできるだけ沢山の人々に知ってほしい。そして、海に少しでも関心を持つてもらえたたら」と、研究員の塩飽敏史さんは話します。みずしま財団では、



黒崎での漁業体験の様子。塩飽敏史さん(左)のレクチャーに、真剣に耳を傾ける参加者。

## 「世界の宝石－瀬戸内海」を磨く－中四国環境サミット－ 海ごみから瀬戸内海の環境を考える in 岡山 が開催されました。

開催日 | 2013年6月15日(土)、16日(日)

海の環境について考える「中国四国環境サミット」が、2日間にわたり開催されました。1日目は、瀬戸内海に点在する島々の多島美を楽しみながら、専門家と市民が意見交換し、環境問題への理解を深めました。奈良県立大の西田正憲教授は瀬戸内の景観について「開発の進んだ地域では、すでに失われてしまった風景であり、年配の方は懐かしく感じる。近年では瀬戸内国際芸術祭が開催されるなど、若者や観光客にとって非日常の空間として楽しめる」と語りました。

2日目は、NPOや漁業関係者ら13人が円卓会議を行い、市民100人が聴講する形で、環境問題について意見交換を行いました。同時開催された子どもサミットでは小学生らがクイズなどを通じて海ごみについて学びを深めました。イベントを主催したNPOグリーンパートナーおかやまの藤原瑠美子理事長は「世界の宝石、瀬戸内海を磨く」を合言葉に啓発活動を盛り上げたい」と意気込みを語りました。



①子どもサミットでの様子。ももっちと一緒に  
②各団体の取り組み内容をスライドで解説  
③真剣な表情で意見を交わす出席者の方々

## そのポイ捨て、ちょっと待って。海と川はつながっているのです。



① 漂流ごみ  
海域に流出し、海面・海中で浮遊するゴミ。

② 漂着ごみ  
海域に流出したゴミが、波の流れで海岸に押し寄せられ、堆積したもの。

③ 海底ごみ  
海ごみの中でも全体の7割を占めると言われている、海の底に堆積したゴミ。不法投棄された粗大ゴミなども含まれる。

## 瀬戸内海の水質環境

# アマモ場再生への取り組み

海全体の生態系を支える

### 日生の海の調査から

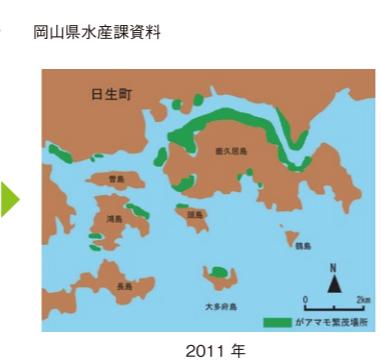
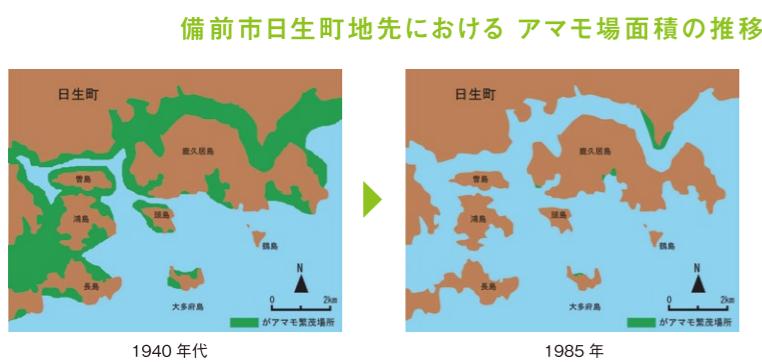
カキ筏が並ぶ日生の海。小の島々と入り組んだ湾に囲まれた遠浅の海は、古くから好漁場として知られていきました。日生の漁師たちは独自の「つば網」漁法を編み出し、常に先進的な漁業を取り入れながら海ごみ回収に早くから取り組み、海と共に生きてきました。開発が進んだ昭和半ば、漁獲量は目に見えて減少します。国をあげての「栽培漁業」が盛んになり、つば網漁師たちはクルマエビを育てて稚エビを放流しますが、漁獲量はいつこうに増えません。

岡山県の水産業改良普及員であった田中丈裕さんは、昭和56年から、日生の漁師たちのもとに通い続けて海にも潜ります。漁師たちはアマモの種子を海に蒔き続けています。その数1億粒超。2011年には2000haのアマモ場が復活、様々な魚介類の姿も戻ってきました。こうして日生から始まったアマモ場再生の動きは全国に広がっています。

「漁業は海のおこぼれを頂戴する産業だ」という漁師さんの言葉が印象深かったと田中さんは語ります。「人間に都合のよい魚だけを増やそうとしても駄目なのです。魚は成長に応じて住み場所を変え、食べたり食べられたりしながら生きています。その連続性を断ち切つてしまふのが人間だとすれば、足りなくなつたところを補わなければいけない。生き物が消えてしまつた海は、そのままでは魚は戻つてきませんから」

田中さんの活動は、アマモ場再生から、もともとその海がもつ多様性を活かしつつ生態系全体をかさ上げする海洋牧場構想へと発展していきました。2001年、笠岡の白石島に海洋牧場を完成させ、翌年には東備地区の「海の森づくり推進事業」に着手。地球環境科学分野の第一人者であり、すでに10年近く連携してきた

NPO法人 里海づくり研究会議  
理事長 奥田 節夫 さん(右)  
事務局長 田中 丈裕 さん(左)  
岡山市北区東島田町2-7-20-501  
TEL 086-441-1523  
<http://satouniken.web.fc2.com/>



漁師たちはアマモの種子を海に蒔き続けています。その数1億粒超。2011年には2000haのアマモ場が復活、様々な魚介類の姿も戻ってきました。開発が進んだ昭和半ば、漁獲量は目に見えて減少します。国をあげての「栽培漁業」が盛んになり、つば網漁師たちはクルマエビを育てて稚エビを放流しますが、漁獲量はいつこうに増えません。

岡山県の水産業改良普及員であった田中丈裕さんは、昭和56年から、日生の漁師たちのもとに通い続けて海にも潜ります。漁師たちはアマモの種子を海に蒔き続けています。その数1億粒超。2011年には2000haのアマモ場が復活、様々な魚介類の姿も戻ってきました。開発が進んだ昭和半ば、漁獲量は目に見えて減少します。国をあげての「栽培漁業」が盛んになり、つば網漁師たちはクルマエビを育てて稚エビを放流しますが、漁獲量はいつこうに増えません。

### カキ殻利用と種まき

1985年、日生のつば網漁師26人と田中さんはじめ県水産課は、アマモ場再生の取り組みを始めました。しかし、当時は再生どころか重要性さえまだ認識されていない時代。思

ました。そして漁師から「海からアマモ場が消えてしまった。いくら放流してもアマモ場がなければ稚魚は育たない」という話を聞きます。

アマモは沿岸に自生する海草。群生するアマモ場は、産卵や成育の場所であるとともに、海全体の生態系を支える大切な役割を果たします。日生の海には1940年代まで約590haものアマモ場がありました。ところが、1980年代にはわずか12haまで激減してしまったのです。



## まとめ

太古の昔から、豊かな自然を育み、人々の暮らしを支えてきた瀬戸内海—その豊饒の海を取り戻そうという動きは、近年各地で広がっています。今回、取材にお伺いした山陽女子高校、みずしま財団、里海づくり研究会議などの先鋭的な取り組みをはじめ、産業界や学会、官民の調査・研究機関やNPO法人、そして、地域で漁業に携わる皆さん様々な人たちが、職種や世代を超えて、瀬戸内海を守り続けていこうとしているのです。

河川や用水路に捨てられたゴミはいずれ海へと行きつく場合があります。美しい瀬戸内海をいつまでも守り続け、次の世代へ引き継いでいくことが私たちに課せられています。今日からの私たち一人一人の行動がその活動につながっていくのではないかでしょうか。

### わたしたちにできることは何だろう?

- 使い捨てのものはなるべく使わない
- 無料でも、必要ないものはもらわない
- 壊れたものもすぐ捨てずになるべく修理して使う
- ゴミは必ず分別して出す
- 海や川の清掃活動に参加する
- 瀬戸内の環境問題のことをまわりの人々に伝える

ちいさなことの積み重ねが、海を守ることにつながるのじゃ!



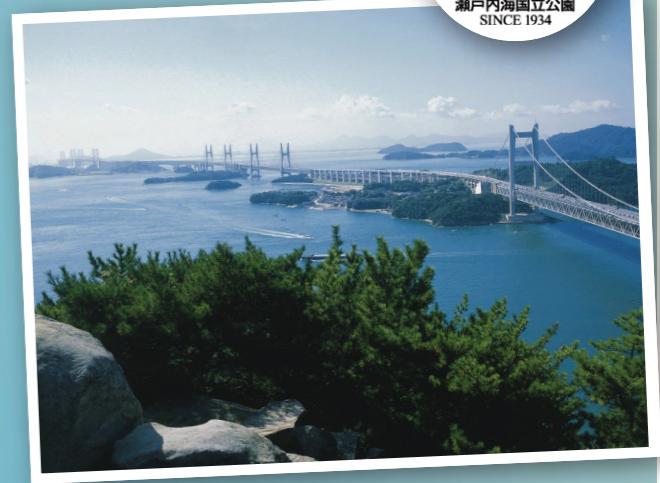
## 瀬戸内海国立公園

2014年には指定80周年。人と自然が創り出した景観

瀬戸内海国立公園は、昭和9年に国内で初めて指定された国立公園の一つです。公園指定区域は徐々に広がり、現在では1府10県にまたがる日本最大の面積をもつ国立公園となりました。来年(2014年)には国立公園指定80周年を迎えます。

紀淡、鳴門、関門、豊予の4つの海峡によって外海から隔てられた穏やかな海、瀬戸内海。大小さまざまの島が織り成す多島美に加え、海岸の景観も変化に富み、さらに陸・海域ともに多様な生物が生息しています。

最大の特徴は、人と自然が共存してきた海であるということ。島の段々畠や家並み、行き交う船や港の景色などが四季折々の風情を添えています。人と自然が創り出した独特の美しさは国内外の多くの人々から愛されています。



# わくわく アスエコ 夏のスペシャルイベント

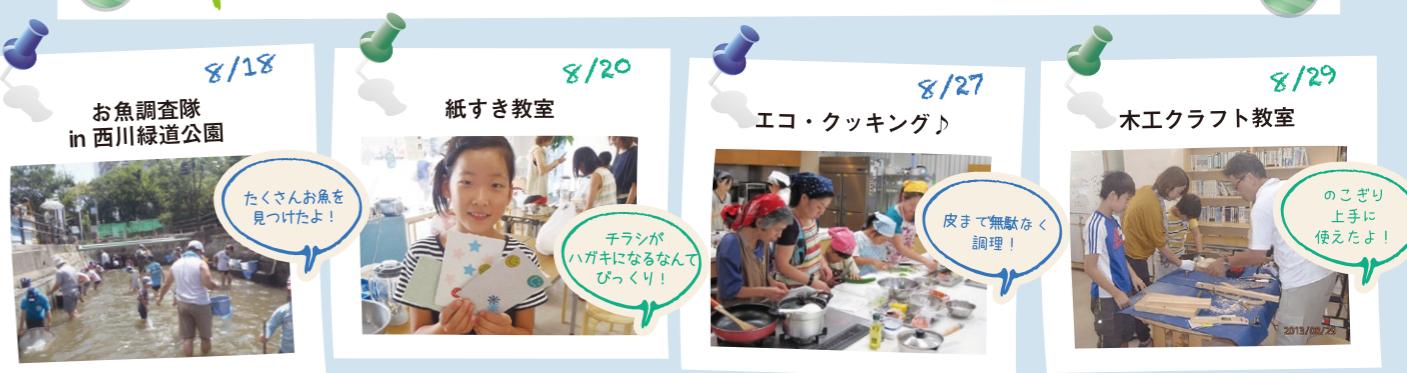
「アスエコ」では一般と親子を対象とした体験型プログラムを企画しました。  
その思い出を写真でふりかえります。



## 蒜山の森と源流へ 夏の「ひみつ」のエコツアー



- 今まで体験したことのないプログラムばかりで、楽しく新鮮に感動の連続だったようです。
- 自信あふれる子どもを見て、ひと回り大きく成長した様に思います。
- 帰りの車の中、家に帰ってからもずっといろいろな話をしてくれました。
- 子ども達だけの参加ですので、親に頼らず、自分で責任を持って活動できたようです。
- 集団生活の中で新たな“自分”を見発見してくれたと思う。



各季節のスペシャルイベント情報はアスエコのHPを見てね☆  
[http://www.kankyo.or.jp/koueki/gakushu\\_center/](http://www.kankyo.or.jp/koueki/gakushu_center/)

次の世代へ続く、  
エコロジーな企業の挑戦

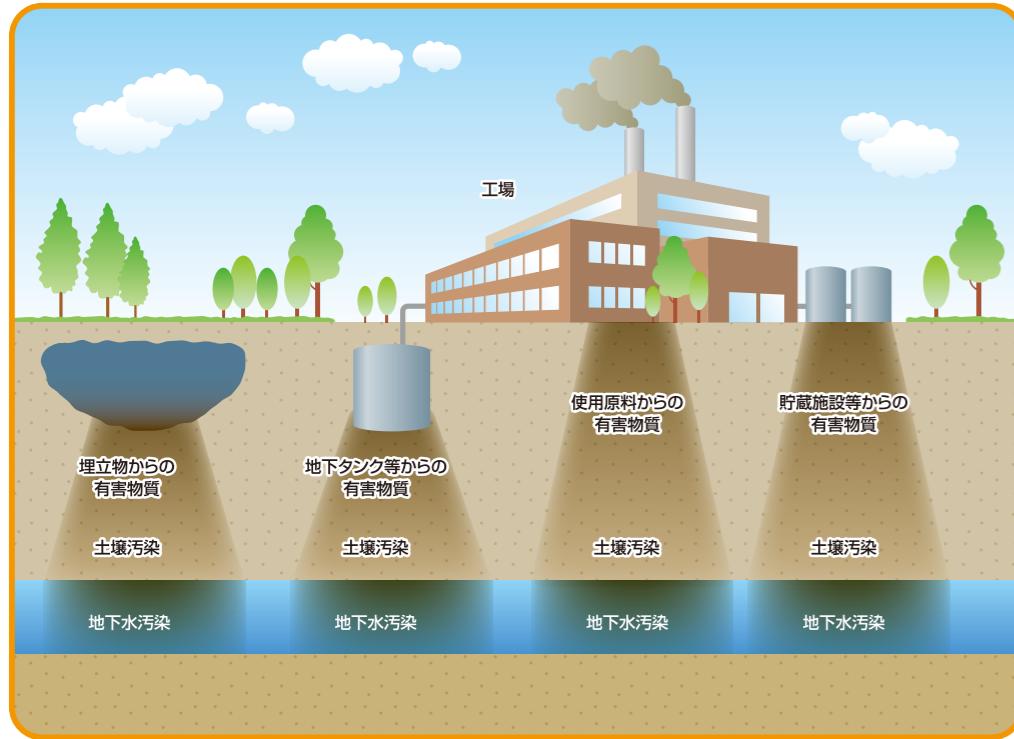
# Next Step

## 土壤汚染対策法とは?!

土壤汚染の歴史は古く、明治時代の足尾銅山鉱毒事件は日本の公害の原点といわれています。土壤汚染に関する法整備は長く課題となっていましたが、平成14年に土壤汚染対策法(土対法)が制定されました。

土対法は、人の健康が害されるのを防ぐことを趣旨としています。土中に蓄積された有害物質が人体に摂取される経路には、汚染された地下水や食物から摂取するもの(間接経路)と、砂場などで直接触れる場合(直接経路)があり、この経路を遮断しようとするのが土対法です。

平成22年に土対法が改正され、企業からの相談は増加傾向



公益財団法人 岡山県環境保全事業団  
(環境省指定 土壤汚染調査機関)

## 人々の健康を支える 土壤汚染調査への取り組みで



環境調査部 調査計測課  
課長 大坪尚広さん

増えました。30000平方メートル以上の開発時がそれになりますが、小規模な個人の不動産売買の際にも調査を行うようになってきました。

法律に基づく調査は、環境省から指定された調査機関しか行えません。岡山県環境保全事業団は国家資格「土壤汚染調査技術管理者」を複数名有する指定調査機関です。土地開発などに絡んで主に企業からの相談が近年増えています。

「万が一、お住まいの地域で土壤汚染が見つかっても必要以上に恐れることはありませんよ」と同事業団環境調査部調査技術管理の大坪尚広さんは話します。

### 企業活動のための環境基礎講座 知つておきたい土壤汚染リスクとその対策

平成25年11月13日(水) 13:45 (開場 13:15)~16:45  
岡山コンベンションセンター 301会議室

「土地取引における土壤汚染の取り扱いについて」  
太田秀夫氏 弁護士・中央大学法科大学院 教授

「土壤汚染調査及び対策、リスクコミュニケーション」  
武田康雄氏 株式会社フィールド・パートナーズ 他

■お問い合わせ 公益財団法人 岡山県環境保全事業団環境調査部  
〒701-0212 岡山市南区内尾 665-1 Tel. 086-298-2616 <http://www.kankyo.or.jp>

入場無料  
定員100名

申し込み締切  
11月10日(日)  
定員になり次第  
締め切らせて  
いただきます

しく設定されていますし、土壤から人体への経路が正しく遮断されていれば、人体に影響はありません。飲み水に井戸を使用してたり、汚染土壤に直接触れることがなければ問題ないと考えていいでしょう。ただし、気になることがあります。当事業団にお気軽にご相談ください。」

第2回

# 歩きたくなる西川

持続可能なまちづくりに向けて



岡山大学  
地域総合研究センター AGORA 助教  
**岩淵 泰**  
Iwabuchi Yasushi  
福岡市出身。熊本大学博士課程修了(公共政策)。フランス・ボルドー政治学院留学。カリフォルニア大学バークレー校都市地域開発研究所客員研究員。2011年11月より岡山大学現職。専門/フランスの地方分権、参加民主主義論、まちづくり

## 岡山の水のまちづくりは太古の昔から

雨の日が少ない「晴れの国」岡山。その岡山が豊かなのは、**水のまちづくり**のおかげです。水がないと、都市も地域も発展できません。

太古の昔、岡山平野は、吉備の穴海と呼ばれる内海に覆われ、先人達は干拓で土地を広げました。戦国時代、宇喜田直家と秀家が、備前福岡市から岡山を城下町とし、江戸初期、池田光政が岡山城や後楽園など現在のまちの風景をつくり行ってきました。

光政の偉業は、城下町を洪水から守るために百間川の整備、そして、藩の財源強化のため沖新田の干拓地など巨大な公共事業を成功させ、閑谷学校など市民教育を充実させたことです。

しかし、岡山のまちづくりで忘れてはならないのは、光政のブレインである熊沢蕃山と津田永忠との間で、水土の思想を巡り緊張関係があったことです。実は、300年もの昔に、自然保護に重きを置くのか、もしくは、地域開発を進めるのか、岡山では持続可能なまちづくりの本質的論争が展開されていました。大切なことは、岡山独自の環境思想と実践は、今も暮らしの基盤として、まちづくりに活かされていることです。

## 歴史からひとく、岡山の水のまちづくり



### 西川の豊かな水は 市民と行政の努力と心の姿

それでは、水とまちをテーマに西川緑道公園を捉えてみましょう。明治、大正、昭和にかけて、西川は徐々に生活排水路として汚れていきました。そして、高度経済成長期、水路を生める計画が持ち上がります。しかし、岡崎平夫市長(1963年～83年)は、「埋め立てに反対し、水道整備や緑化などの環境行政を進めています。そして、岡崎市長は、「緑と花、光と水」の西川緑道公園を1974年から1982年の9年をかけて完成させます。それ以後、西川緑道公園は市民と行政による協働のまちづくりの舞台となります。1980年代後半から10年間は、市民団体・チーム25による全国屈指の西川フリーマーケットが開催され、岡山市賑わい創出事業は、アート、音楽、イルミネーション、環境学習など多様な市民活動を育てて行きました。そして、岡山の環境に対する姿勢は、2004年、国際環境コンクール・リブコムで入賞、2005年には、国連大学からESDの地域拠点に選ばれるなど世界的な評価を受けるようになっています。

今回、皆さんと考えたいのは、持続可能な都市には、豊かな水の暮らしが不可欠であり、過去から現代に至るまで、水のまちづくりこそ、岡山の魅力でもあることです。西川緑道公園に流れる水は、みんなの努力と心の姿を現しながら、「晴れの国」であり「水の国」岡山であることを私たちに伝えているのです。

## 【 ミズアオイ 】

*Monochoria korsakowii* Regel et Maack.



### 特徴

高さ: 20~40cm  
分類: 被子植物門 单子葉類  
ミズアオイ科  
池沼開発、河川開発、農薬汚染等で自生地は限られている。

岡山県では  
絶滅危惧種※  
に指定

オオサンショウウオ、  
カトガニなど  
同ランク

※絶滅の危機に瀕している種で、  
もしも現在の状態をもたらした圧迫  
要因が引き続き作用するならば、  
その存続が困難になるもの。



### 生育情報

一年草で茎や葉柄は多孔質で柔らかい。高さ20~40cm。葉柄は根生葉で10~25cm、茎葉で4~10cm。葉身は心形で長さ、幅共に4~15cm。花序は茎の先端に頂生し、葉より高い位置に青紫色の花を多数つける。花は径2.5~3cmで一つの花は一日しか咲かない。おしゃべの茎は5個が黄色で長さ3mm、めじべより上につく。紫色の大きな茎は長さ4mmでめじべの横の位置につく。めじべの位置が中心部より右につく花と左につく花があり、鏡面対称の花である。さく果は円錐形で長さ10mm。種子は長さ1.5mm、太さ0.7mmでだ円形。近縁種のコナギは茎が直立せず、花はまとまってつく。花期は9~10月。

### 分布状況

北海道、本州、四国に分布する。県内では県南部に生育していたが、現在では自生地はごく限られている。岡山県内における自生地は倉敷市の1ヵ所となったため、「岡山県希少野生動植物保護条例」の指定種となった。

岡山県希少野生動植物保護条例とは?  
岡山県で特に保護を図るべきあるものを指定希少野生動植物に指定し、捕獲等を規制するとともに、県民等と協働してその保護に努める条例。

参考文献「岡山県版レッドデータブック 2009」

## 岡山県自然保護センターで 紅葉や冬鳥を観察してみよう!

### 満喫自然体験

#### 「秋のトレイルウォーキング」

里山の紅葉と冬鳥を観察をしながらのウォーキングです。センターではイロハモジやニシキギ等、気の早い木々が色づき始め、ジョウビタキやオジ等の冬鳥もやってきたばかり。秋の到来を感じながらのんびり歩いてみませんか。

11月7日(木) 10:00~14:00

場所 岡山県自然保護センター  
(開始時間までにセンター棟に集合)

参加費 無料  
申込み 要申込(申込期間:9月1日~10月31日)  
※山歩きのできる服装、雨天決行。



### 岡山県自然保護センター

Tel 709-0524 和気郡和気町田賀 730  
Tel 0869-88-1190  
休所日 毎週火曜日及び祝日の翌日、年末年始  
開所時間 9:00~16:30 入場料 無料  
ホームページ <http://opnacc.eco.coocan.jp>

### 他にもこんな生き物や 植物を観察できます

### 参加費は全て無料!!

その時期に見られる様々な生き物を観察する「初心者のための自然観察会」や、様々な体験を通じて自然や生物に親しむきっかけ作りを提供する「満喫自然体験」を開催! どなたでも気軽に参加できます。

|              |  |
|--------------|--|
| 10/20<br>(日) | きのこの見分け方   |
|              | センター内でできることを採集し、きのこの見分け方を学びます。お昼に「さきのこ汁」もおいしくいただけます。           |
| 10/20<br>(日) | かまきりの生活  |
|              | センターにはどんなかまきりの仲間がいるのでしょうか。見分け方といっしょに、驚きの裏話も教わりましょう。            |
| 11/10<br>(日) | どんぐりと果実  |
|              | 秋はみのりの季節。ツルウメモドキ、ナナノキ、どんぐりなどを観察しながら、そのツボを教わりましょう。              |
| 11/17<br>(日) | 池のまわりの野鳥   |
|              | センター棟前の「上池」をぐる～っとまわって身近な野鳥を観察しましょう。                            |
| 12/8<br>(日)  | リースづくり   |
|              | 藤などのつる植物や木の実を使って、あなただけのオリジナルクリスマスリースを作りましょう。                   |
| 12/14<br>(土) | ノルディックウォーキング体験教室(中級編)  |
|              | ふかふか落ち葉のつるセンターフィールドの中で、思いっきり健康体験してみませんか。早くできた方は「わらじ」作りにもチャレンジ! |
| 12/15<br>(日) | しめなわづくり  |
|              | お正月用にオリジナルの「しめなわ」を作って飾ってみませんか。早くできた方は「わらじ」作りにもチャレンジ!           |

…満喫自然体験    ■ 初心者のための自然観察会

\*「満喫自然体験」は事前の申込が必要です。詳細はホームページをご確認ください。